

地域おこし協力隊の活動日記

飛騨市内で活動している地域おこし協力隊員
市内に存在するさまざまな地域資源を活用し、地域の特色を活かした産業の創出を図ります



森の楽しさを、
木の価値を伝えたい！
隊員 森口 明子

飛騨市地域おこし協力隊として飛騨古川で活動している森口明子（もりぐちあきこ）です。出身は大阪で、以前は東京の飲料会社でブランドPRやマーケティングの仕事をしていました。

飛騨市の皆様、こんにちは！

平成27年5月に設立された(株)飛騨の森でクマは踊るの事業が地域にとって身近なものになるよう企業・教育機関の合宿誘致、建築家やデザイナーなどの誘致、イベントの企画と開催、プロトタイプ開発コーディネーション、PRなどこれまでになかったさまざまな人と市民の皆さんとのつながりづくりを担当しています。



▲旧熊崎邸を改築した FabCafe Hida

具体的には、FabCafe Hidaを拠点に、世界中の建築家やデザイナーを誘致し、飛騨の職人の技や知恵を共有しながら飛騨の広葉樹を活用して革新的な商品やサービスを生み出すこと、デジタルファブリケーションを活用してものづくりに新たな流れをつくることなどを目指しています。

FabCafe Hida は、古川町で最も歴史のある家屋の一つに数えられる旧熊崎邸を建築家の中山英之氏のデザインと地元の若手大工さんの施工により改築しました。江戸、明治、昭和の3時代をひとつの空間で体験できるのが特徴です。カフェでは、豆にこだわったスベシャリティ・コーヒー、エロパフェなどのスイーツのほか、木やアクリルなど様々な素材にオリジナルデザインを刻印したりプリントしたりして思い思いのものづくりを体験できます。

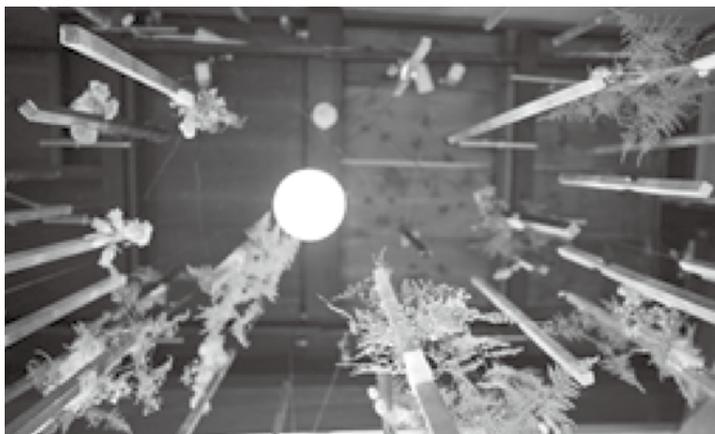
5月から6月にかけてアメリカ、カナダ、台湾、日本の建築とデザインを専攻する学生と教授を招き、FabCafe Hidaを拠点に3週間にわたるデザインキャンプを行いました。

「飛騨の森林資源を素材に伝統とCO2（モノとインターネット）でイノベーションを起こすこと」を目的に、組み木

や製材の過程、木の特徴などを学び、社会にインパクトをもたらす新しい商品やサービスの実作に挑みました。

最終的には6つの試作品が完成。飛騨の人と訪問客をつなぐ仕組みを作ろうと、水力で発電した電気でライトがつき、溝の存在を知らせてくれるベンチ、地元の情報や歴史をスマートフォンを通じて知ることができる組み木ベンチ、古材を再利用し3Dプリンターでつくった組み木を意匠的に見せた生花シャンデリアなど、社会に役立つ機能、伝統を新しい形で見せる作品などを生み出しました。

これらの作品は FabCafe Hida でご覧いただけますので、ぜひお立ち寄りください。



▲生花シャンデリアの作品